

## キャンベラ（オーストラリア）

### 都市（地域）概要

- ・オーストラリアの首都であるキャンベラは、人口約 30 万人を抱える都市で、1913 年からオーストラリアの新しい首都として建設が始まった都市である。都市は人造湖であるパーレーグリフィン湖を中心に連邦議会議事堂や行政機関、各国大使館などが建ち並び、計画的に整備された美しい環境が整備されている。

### 経緯

- ・1901 年のオーストラリア連邦国家設立後、当時の中心都市であった、シドニーとメルボルンの中間に位置するキャンベラを、新しい首都として整備することが 1908 年に決定され、1913 年から建設事業が開始された。1927 年には連邦議会議事堂がメルボルンから移転し、その後徐々に行政機関などが移転を始め、1960 年代に移転が完了した。
- ・1927 年に議会が移転してきたが、実際は 1958 年に連邦首都建設委員会が発足後急激に人口の増加が進み、本格的な首都建設が始まった。都市の拡大にあわせ、市街地を 7 つのクラスターに分け、クラスターの間を緑地によって分節化し、機能の分担と共に豊かな都市環境の維持を図っている。その他、都市内の土地はすべて政府保有で住宅も企業用地もすべて政府から貸し出すことになっている。これはリースホールド制度と呼ばれ、土地投機の問題や土地利用の誘導に効果があった。キャンベラではこのように、新しい首都を建設する上で、様々な工夫が行われた所であるが、近年、ゴミの出ない社会を目指す、キャンベラゴミ処理戦略を策定し、環境面でも新たな取り組みを行っている。

### 内容

- ・自然環境と調和した緑豊かな都市環境の形成（オープンスペースシステム・ガーデンシティ）

キャンベラの都市計画を立案したウォルターグリフィンは当時（1910 年代）都市計画の新しいコンセプトとなりつつあった、「ガーデンシティ」をコンセプトに都市のデザインを行った。このガーデンシティは非常にゆったりとした建物の配置を基本とし、田園のような、緑あふれる低層低密度の都市を目指すものであった。グリフィンもキャンベラの都市計画でこの思想を取り入れ、緑に包まれた市街地が実現されている。

また、都市の拡大にあわせ、クラスターと呼ばれる、市街地群が形成されていった。このクラスターは 7 つあり、各クラスター間は丘陵などの緑地によって明確に区切られている。さらに、その周りにはオープンスペースシステムと呼ばれる緑地があり、緑に囲まれた豊かな都市環境を生み出している。

- ・キャンベラゴミ処理戦略（A Waste Management Strategy for Canberra NO WASTE BY 2010）

1996 年にキャンベラの行政組織である ACT(The Australian Capital Territory Government)は既存の「ゴミ処理戦略」を発展させ、2010 年までに「ゴミの出ない社会」の実現を目指す新しい「ゴミ処理戦略」を策定した。

戦略は基本的に、「いかにして埋立場に運ぶゴミを減らすか」という事が大きな課題となっており、この課題を解決するために、以下の戦略が立てられている。

- ・ コミュニティの参加

コミュニティの参加を求めるために、徹底的な PR など啓発活動を進めると共に、ゴミ削減を達成したことにより表彰を行うなど、コミュニティが率先して参加する枠組みを構築。

- ・ ゴミの発生抑制、削減

ゴミの種類別に、処理にかかるコストなどを列記した目録の作成や、過剰包装を避ける買い物の働きかけ等を行った。

- ・ ゴミの資源への転化

ゴミを資源へと転換させ、ゴミ処分場へ回す量を減らすことを目的にゴミ資源化センターを作り、そこで、ゴミの再資源化を図っている。また、これは、ゴミの再資源化のみならず地域の雇用にも貢献しており、キャンベラの新しい産業としても期待されている。

また、住民を中心とした資源の再利用も盛んとなっており、「日曜中古市」などにより不要品のリサイクルが確立している。

- ・ ゴミ処理のマネジメント

ゴミの分別強化やゴミ埋立場の最大限の活用などによるゴミ処理の効率化や埋立処理への負担金などにより、埋立ゴミの削減を行っている。

- ・ 創造的な解決策の模索

調査研究を通じて、創造的な解決策を模索すると共に、ゴミ処理にかかわる市場の創出を行い、限りある解決策を乗り越えることを目指している。

ACT では、戦略を確実に実行していくために、ゴミ処理に関わるコストなどを明記した目録の作成や資源化センターの整備を初期プロジェクトとして位置付け実行した。その結果、以下に示すような効果がこれまでに表れている。

#### 効果等

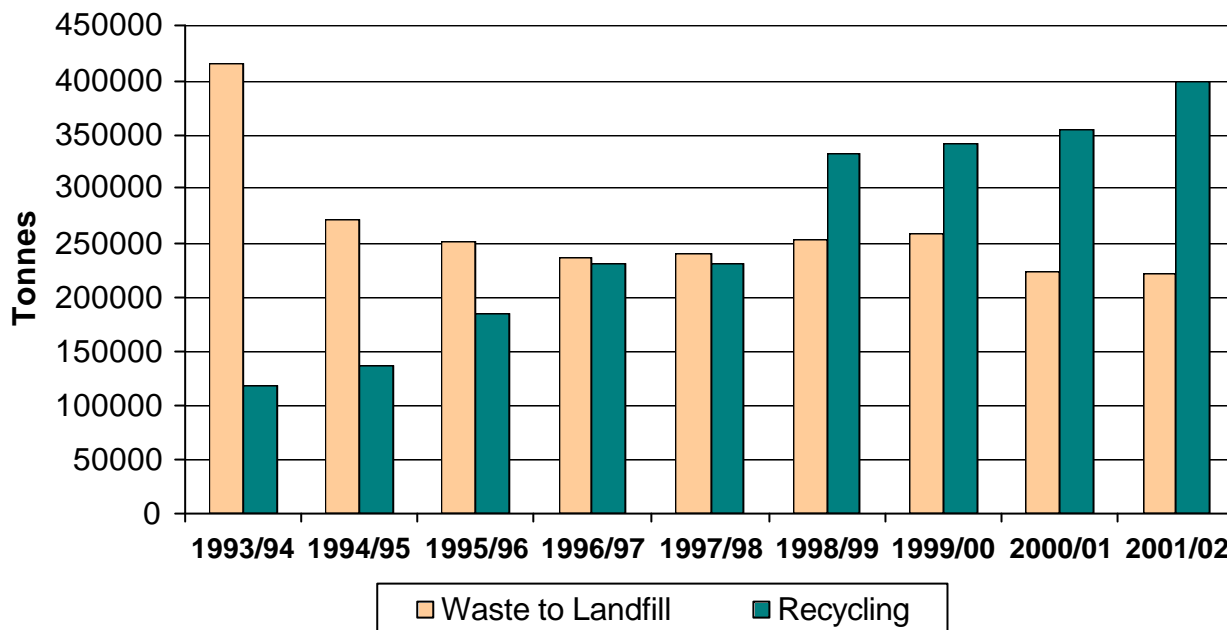
- ・ キャンベラでは、計画段階から自然環境との調和を目指した都市計画を行い現在では、緑に包まれた豊かな都市環境が実現され、別名「ブッシュ・キャピタル」と呼ばれ、自然環境と調和した都市というイメージが定着している。
- ・ 下のグラフにあるように、埋立場の運ばれるゴミは、1993年の約40万トンから2001年には約20万トンとほぼ半減している。また、リサイクルに回されるゴミの量は同じ期間に、約10万トンから約40万トンへと大幅に増加している。
- ・ また、キャンベラのゴミ処理に関する取り組みはニュージーランドなどにも波及するなど拡がりを見せている。

図 埋立処分量とリサイクル量の推移



## Progress in Waste Reduction

How are we going?



出典：[ACT ホームページ](#)より

注：各種資料により(株)エックス都市研究所作成